LIFE 2025

プログラム誌

第24回日本生活支援工学会大会
日本機械学会福祉工学シンポジウム2025
第40回ライフサポート学会大会

次の四半世紀に向かって

Toward the next quarter century



会期 2025年8月27日(水)～29日(金)

会場 神奈川工科大学（神奈川県厚木市）

主催 日本生活支援工学会（幹事学会）
日本機械学会
ライフサポート学会

LIFE 2025

第24回日本生活支援工学会大会
日本機械学会福祉工学シンポジウム2025
第40回 ライフサポート学会大会

次の四半世紀に向かって

Toward the next quarter century

プログラム誌

会 期：2025年8月27日（水）～29日（金）

会 場：神奈川工科大学
〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野1030

主 催：日本生活支援工学会（幹事学会）
日本機械学会
ライフサポート学会

LIFE2025の開催にあたって

第24回日本生活支援工学会大会 大会長　**松田 康広**（神奈川工科大学）
日本機械学会 福祉工学シンポジウム2025 大会長
菅原 雄介（東京科学大学）
第40回ライフサポート学会大会 大会長　**丸山 修**（産業技術総合研究所）

2025年は、21世紀最初の四半世紀の最終年にあたります。区切りの年を迎えたLIFE2025のテーマを「次の四半世紀に向かって」といたしました。LIFEはこの四半世紀に発展しました3学会による連合大会です。ライフサポート学会は1985年にエル・エス・ティ学会として設立、エル・エス・ティ学会大会、ライフサポート学会大会を開催し、LIFE分野の研究を先導してきました。日本生活支援工学会は、2000年に設立し、2001年から日本生活支援工学会大会を開催しました。同じく2001年、日本機械学会では第1回福祉工学シンポジウムが開催されました。21世紀の最初の年に、高齢者や障がい者の生命・生活・人生を支援するために、3つの学会が動き始めました。2003年、まず日本生活支援工学会大会とライフサポート学会大会を連合大会として開催することになり、2004年には、連合大会と同じ会場で福祉工学シンポジウムが並列開催されるようになりました。わずか4年で、LIFEにつながる枠組みができあがりました。そして、2010年、3学会が発起人となり福祉工学協議会が設立され、1つの会場、1つの受付、1つのホームページで連合大会が開催されました。2012年からはLIFEという大会名が定着し、各学会の特長を生かした連合大会が運営されています。

言うまでもなく、この四半世紀の技術の進展には目を見張るものがあります。特にICT（情報通信技術）、ロボティクス技術、AI（人工知能）の発展はめざましく、LIFE分野への応用が進んでいます。新しい技術ばかり注目されがちですが、LIFEでは、研究開発・技術開発に携わる方々に加え、医療・福祉現場の専門職の方々、企業などの産業界の方々、医療・福祉行政の方々、高齢者・障がい者の当事者の方々など、多くの参加者がそれぞれの立場から意見交換を行ってきました。LIFE2025特別企画では「介護ロボットから介護テクノロジーへの新展開」と題して、演者の方々にそれぞれの立場からご講演いただきます。このようなLIFEの特長は、次の四半世紀も続けていきたいと考えています。

一方でこの四半世紀は、地震や異常気象などによる度重なる自然災害、未曾有の感染症に見舞われた四半世紀でもありました。残念ながら世界各地の紛争は絶えず、生活に及ぼす影響も非常に大きくなっています。LIFE2025特別講演では「大規模災害時の止めない医療を目指して」と題して、災害時の透析医療の支援、停電時の医療機器への給電についてご講演いただきます。次の四半世紀では、自然災害などにどのように備えるか、自然災害などが起きた場合にはどのように対応するか、支援をさらに進めていく必要があると思います。

これまでの四半世紀、LIFEを支えていただいた先生方に感謝するとともに、LIFE2025が次の四半世紀に向かって活発な議論や意見交換の場となることを期待しております。

最後に、LIFE2025の開催にあたり、協賛・機器展示等でお世話になりました企業・団体の皆様、ご尽力いただいた実行委員、プログラム委員の皆様、会場提供を含め多大な協力を賜りました神奈川工科大学の皆様、そして参加者の皆様に心より感謝申し上げます。

参加者へのご案内

■ 参加受付

講演会および情報交換会の受付を行います。

日　時：8月27日（水）12：30～17：30
　　8月28日（木）　9：00～17：45
　　8月29日（金）　9：00～12：30

場　所：K3号館 1階 ロビー

■ 参加登録

LIFE2025の参加登録はオンライン登録のみです。

	早期参加登録（8/18まで）	8/19～・当日
一般会員	10,000円	13,000円
非　会　員	16,000円	21,000円
学生会員	5,000円	8,000円
学生非会員	9,000円	12,000円

※主催3学会および後援団体に所属の方は会員登録費が適用になります。
※参加費にはプログラム誌（冊子）と講演論文集（ダウンロード）の料金が含まれています。
※参加登録費の払い戻しは致しませんのでご了承ください。

■ 情報交換会

大会2日夕刻より、参加者間の親睦と情報交換を目的に情報交換会を開催いたします。

日　時：8月28日（木）18：00～20：00

場　所：K1号館 12階 カフェテリア

本厚木駅行き送迎バス（無料）：19：20、20：00、20：20発

	会　　費
一　般	6,000円
学　生	3,000円

※定員100名（先着順）です。

■ 学生交流会

学生連合会は、2012年度に発足した学生に向けた学生だけの会であり、LIFE 学生連合会企画セミナーの企画運営をおこなっています。本年度はOS 企画「研究という大海原を航海する ―企業と大学における研究を通じて―」および学生交流会を企画いたしました。学生交流会は、学生の皆様の親交を深めることを目的とし、以下の内容にて実施いたします。お誘いあわせの上、奮ってご参加ください。

日　時：8月28日（木）12：15～13：15

場　所：K3号館 4階 F 会場

参加費：1,000円（当日ご用意ください）

■ 機器展示・ドリンクコーナー

日　時：8月27日（水）13：30～17：30
　　8月28日（木）　9：30～17：45
　　8月29日（金）　9：30～12：30

場　所：K3号館 5階 3503室

機器展示企業・団体：カトウ光研株式会社
　　エースポイントシステムズ株式会社／アキュイティー株式会社
　　公益財団法人 JKA
　　株式会社 NeU　　（順不同）

■ 休憩室・PC チェック室

ご持参の PC の映像出力を、プロジェクタを使用してご確認いただけます。

日　時：8月27日（水）13：30～17：30
　　8月28日（木）　9：30～17：45
　　8月29日（金）　9：30～12：30

場　所：K3号館 5階 3502室

■ クローク

日　時：8月27日（水）12：30～17：40
　　8月28日（木）　9：00～17：50
　　8月29日（金）　9：00～12：40

場　所：K3号館 1階 3102室

※日をまたいでのお預かりはしません。情報交換会では別途荷物置き場を用意する予定です。

■ 学会一時託児

お子様を同伴する参加者のための一時託児サービスは、事前にお申し出いただいたご希望状況にもとづき提供します。

■ 表　　彰

LIFE2025では、優秀な講演発表に対して以下の表彰を行います。

●若手プレゼンテーション表彰

2025年8月27日（水）時点で（大会初日時点で）満35歳以下である応募者から、主催3学会いずれかの会員（学生会員含む）である発表者のうち応募者を対象に、若手プレゼンテーション表彰を行います。各セッションの座長らにより審査を行い、受賞者を決定します。受賞者には後日、表彰状を送付し、大会ホームページで公開します。

●バリアフリーシステム開発財団奨励賞

ライフサポート学会ではバリアフリーシステム開発財団による助成金を基にバリアフリーシステム開発財団奨励賞を設け、2025年8月27日（水）時点で（大会初日時点で）満35歳以下である優秀論文発表者数名に表彰状と賞金を授与します。

バリアフリーシステム開発財団奨励賞選考委員会により、演題申込時の申請と投稿された講演論文に基づき一次審査を行い、さらに8月27日（水）午前に行われる二次審査会において一次審査を通過した申請者による講演を審査し、受賞者を決定します。一次審査通過者は必ず二次審査会と表彰式に参加してください。

二次審査会：8月27日（水） 9:30～12:30　K3号館 5階 B 会場

表　彰　式：8月28日（木）12:50～13:25　K3号館 6階 3606室

●**日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門「分野融合研究優秀表彰」**

日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門では、当該年度の講演会の部門連携 OS において発表された研究を対象とし、分野融合研究が最も優秀な研究と評価を得た研究の著者全員に対し、分野融合研究優秀表彰を行っています。

LIFE2025においては、オーガナイザが希望する OS について、ロボメカ部門と他の部門の部門連携 OS と位置づけ、ここにおいて優秀な分野融合研究と評価を得た研究に対し上記の表彰を行います。

応募資格：原則として日本機械学会会員とする。ただし受賞が決定してから入会手続きを行うことを認める。

ロボティクス・メカトロニクス部門と、機素潤滑設計部門・バイオエンジニアリング部門・機械力学・計測制御部門のいずれかまたはすべてに関連する分野融合研究であること。

なお、表彰式は翌年度開催のロボティクス・メカトロニクス部門講演会で行います。

■ 座長・演者の皆様へ

一般演題セッション（GS）につきましては、

発表時間：口頭発表10分、討論4分、演者交代1分といたします。

OS につきましても、オーガナイザから個別に連絡がない場合には

発表時間：口頭発表10分、討論4分、演者交代1分といたします。

当日の進行につきましては、座長（担当）の指示に従ってください。プログラムの円滑な進行のため、時間厳守へのご協力をお願いいたします。

発表者の方は、ノートパソコンやタブレットをご持参ください。

会場で用意されているビデオケーブルは「HDMI ケーブル」「ミニ D-sub15 ピン」となります。これ以外のコネクタのコンピュータを持ち込まれる場合は変換アダプタを各自でご用意ください。

本会で発表される論文は年会ホームページからダウンロードできます。

https://life2025.secand.net/ronbun

閲覧には ID とパスワードが必要です。

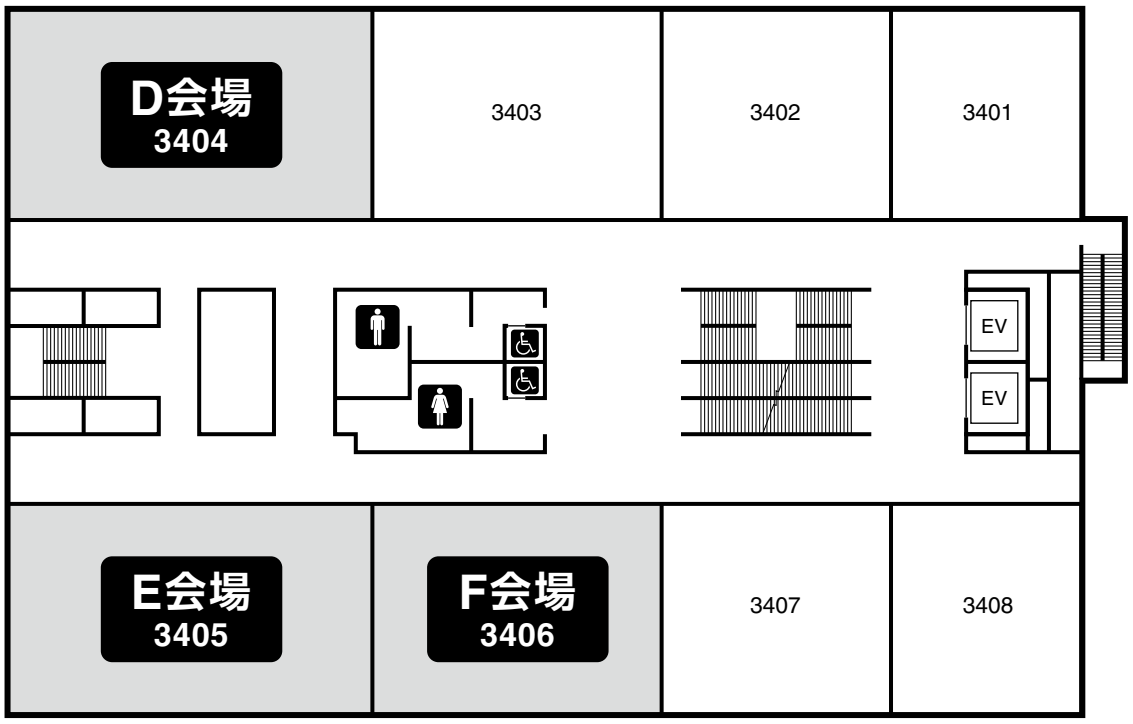
ユーザー名：life2025

パスワード：kanagawa

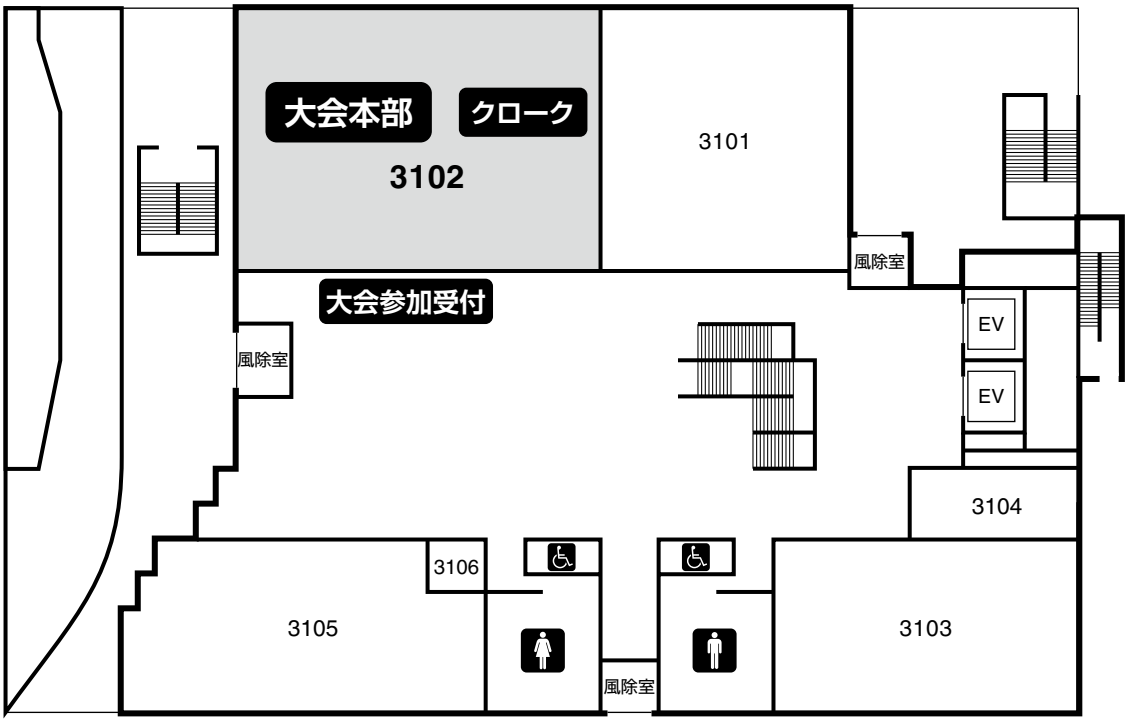
会場案内図

神奈川工科大学　K3号館（講義棟）

4F

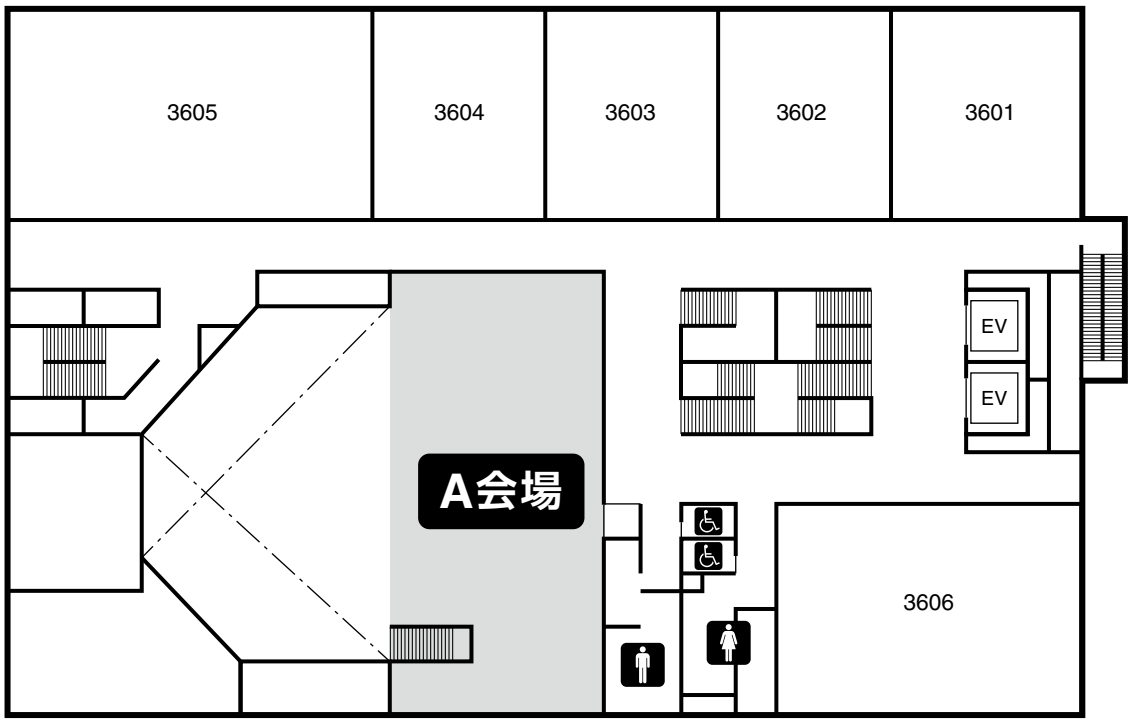


1F

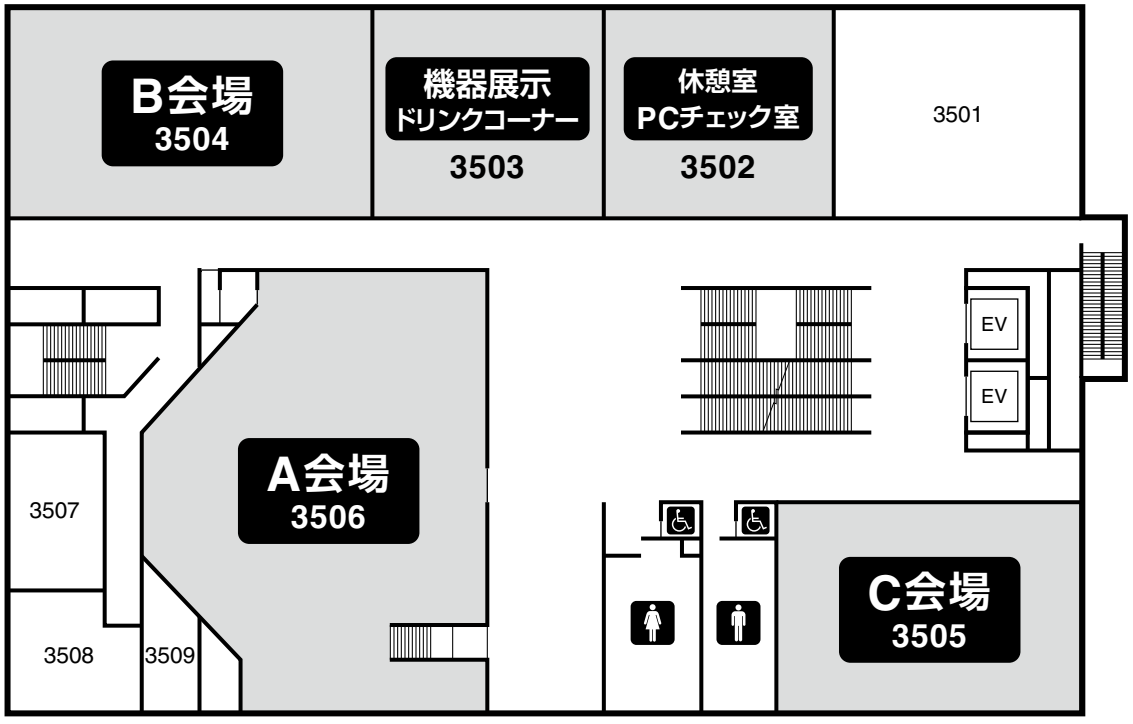


神奈川工科大学　K3号館（講義棟）

6F



5F



1日目　8月27日水

	A会場 5F 3506	B会場 5F 3504	C会場 5F 3505	D会場 4F 3404	E会場 4F 3405	F会場 4F 3406	機器展示 5F 3503
9:30		9:30～12:30 **ライフサポート学会 バリアフリーシステム開発財団 奨励賞 二次審査会**					
10:00							
11:00							
12:00							
13:00							
14:00	13:30～15:15 **特別企画** **介護ロボットから介護テクノロジーへの新展開**						13:30 ～ 17:30 **機器展示**
15:00		15:30～16:30 **OS-13** **医療DXを実現する医薬品医療機器GS1コードの普及と課題**	15:30～17:00 **OS-9** **各専門領域における支援機器人材育成プログラムの構築**	15:30～17:30 **OS-2** **顎口腔機能に関する先端技術**	15:30～17:30 **OS-6** **心臓血管血流生理**		
16:00							
17:00							
18:00							

2日目 8月28日(木)

	A会場 5F 3506	B会場 5F 3504	C会場 5F 3505	D会場 4F 3404	E会場 4F 3405	F会場 4F 3406	機器展示 5F 3503
9:30			9:30～10:45 **OS-14-1** 医療福祉ロボット（1）	9:30～10:45 **GS-2-1-1** 生活支援技術（1）	9:30～10:45 **GS-1-1** 義肢装具		9:30～17:45 **機器展示**
10:00		9:45～10:45 **OS-12-1** ニューロリハビリテーションと工学（1）					
11:00		11:00～12:15 **OS-12-2** ニューロリハビリテーションと工学（2）	11:00～12:15 **OS-14-2** 医療福祉ロボット（2）	11:00～12:15 **GS-2-1-2** 生活支援技術（2）	11:00～12:15 **OS-1** 生活期リハビリテーション・ヘルスケア	11:15～12:15 **OS-8** LIFE学生連合企画オーガナイズドセッション	
12:00						12:15～13:15 **学生交流会** 参加費：1,000円	
13:00	13:30～14:15 **特別講演** 神奈川工科大学 山家 敏彦先生						
14:00		14:30～16:30 **OS-15** 分野連携が必要な領域における人材育成の取り組み	14:30～16:00 **GS-4-2-1** 運動計測・バイオメカニクス・機構（1）	14:30～16:00 **OS-7** がん対策を支える情報と技術	14:45～16:00 **GS-2-2** 情報・コミュニケーション支援	14:45～16:00 **GS-4-1** 生体計測	
15:00							
16:00			16:15～17:15 **GS-4-2-2** 運動計測・バイオメカニクス・機構（2）	16:15～17:45 **GS-1-3** 福祉リハビリテーション機器	16:15～17:45 **GS-1-2** 運動・生活支援機器	16:15～17:45 **GS-3-2** 手術支援・人工臓器	
17:00							
18:00							

18:00～20:00 **情報交換会** 会場：K1号館 12階 カフェテリア

3日目　8月29日金

	A会場 5F 3506	B会場 5F 3504	C会場 5F 3505	D会場 4F 3404	E会場 4F 3405	F会場 4F 3406	機器展示 5F 3503
9:30		9:30～10:45 **OS-3** 看護理工学	9:45～10:45 **OS-16** 生体流体工学～次世代の医療デバイス開発に向けて～	9:30～10:45 **GS-3-1** 診断・治療支援	9:30～10:45 **GS-4-3** 画像処理・センサ		9:30 〜 12:30 **機器展示**
11:00		11:00～12:30 **OS-11** 利用現場からのエビデンスの必要性と取組み	11:00～12:30 **OS-5** 理学療法分野における工学技術の応用	11:00～12:30 **OS-4** 足と歩行の医工学	11:00～12:30 **GS-3-3** 生命支援一般		
12:00							
13:00							
14:00							
15:00							
16:00							
17:00							

特別企画

特別講演

詳細プログラム

GS・OS

一般セッション（GS）一覧

GS-1-1：義肢装具

GS-1-2：運動・生活支援機器

GS-1-3：福祉リハビリテーション機器

GS-2-1-1：生活支援技術（1）

GS-2-1-2：生活支援技術（2）

GS-2-2：情報コミュニケーション支援

GS-3-1：診断・治療支援

GS-3-2：手術支援・人工臓器

GS-3-3：生命支援一般

GS-4-1：生体計測

GS-4-2-1：運動計測・バイオメカニクス・機構（1）

GS-4-2-2：運動計測・バイオメカニクス・機構（2）

GS-4-3：画像処理・センサ

OS 一覧

OS-1：生活期リハビリテーション・ヘルスケア

オーガナイザ：小川 愛実（慶應義塾大学）、二瓶 美里（東京大学）

生活期リハビリテーションは患者の自宅で実施されるため専門家による機能評価の頻度の減少や、環境整備の限界が課題となっている。本 OS では、在宅を想定した機能評価システムや環境整備に向けた空間評価に関する研究発表を募集する。

OS-2：顎口腔機能に関する先端技術

オーガナイザ：佐々木 誠（岩手大学）、橋本 卓弥（東京理科大学）、大森 信行（長野県工科短期大学校）

本 OS では、医工学分野の研究者を中心として、構音・咀嚼・嚥下をはじめとする様々な顎口腔機能に関する計測・解析・評価・訓練技術について議論する。

OS-3：看護理工学

オーガナイザ：森 武俊（東京理科大学）、野口 博史（大阪公立大学）、山田 憲嗣（大阪大学）

看護と工学・理工学、特に医用工学・生体工学との関わりを、ケアに関する学術的進展を主眼においた学際的研究と機器・サービスの技術開発との両側面から議論する一般演題中心のセッションです。

OS-4：足と歩行の医工学

オーガナイザ：山下 和彦（東都大学）、山下 知子（東都大学）

日常生活機能の維持に歩行は重要な役割を果たす。歩行を支えているのは足部であり、国内外を含め、様々なトラブルを抱えている。現実的な視点で工学的役割は大きな意義を持つ。本 OS では、最初に 30 分の講演で研究の動向や課題を総括し、4 名の演者により研究成果の発表を行いたい。一般より 1 件の発表を受け入れたい。

OS-5：理学療法分野における工学技術の応用

オーガナイザ：松田 雅弘（順天堂大学）、白銀 暁（国立障害者リハビリテーションセンター研究所）

理学療法における工学技術の応用は重要性を増しており、ますますの発展が期待される。しかしながら、その研究開発は理学療法士あるいは工学者だけでは進展が難しく、両者の協働が不可欠である。本 OS では、理学療法上の課題に対する工学技術を応用した解決の取り組みを幅広く募集し、そのさらなる活性化のために両分野の専門家が議論を深める場としたい。

OS-6：心臓血管血流生理

オーガナイザ：渡邉 宣夫（芝浦工業大学）、井上 雅喬（芝浦工業大学）

循環器を支援する医療技術は目覚ましく発展してきた。さらなる技術の発展のためには、心臓・血管・血流の生理学を対象とした内科的新知見の導出が必要と考える。本セッションではそのような研究課題を取りあげたい。

OS-7：がん対策を支える情報と技術

オーガナイザ：梅沢 淳（国立がん研究センター）、山内 閑子（産業技術総合研究所）

2人に1人ががんになり、かつITが生活の隅々にまで浸透している現代において、「誰一人取り残さないがん対策」に対して工学者がどのように貢献しているか、あるいはこれから貢献できそうか、皆様と整理してみたい。

OS-8：LIFE学生連合企画オーガナイズドセッション

オーガナイザ：田中 大凱（東京電機大学）

学生がオーガナイズする特別企画です。

OS-9：各専門領域における支援機器人材育成プログラムの構築

オーガナイザ：井上 剛伸（国立障害者リハビリテーションセンター研究所）、二瓶 美里（東京大学）、
吉田 俊之（埼玉県立大学）

支援機器の効果的な利用や開発には、専門職の役割が大きく関係してくる。現在厚生労働科学研究費にて、理学療法、作業療法、言語聴覚療法、視能訓練、生活支援工学の各領域における支援機器の開発や利活用に関する人材育成プログラムを構築している。それらについて報告するとともに、議論を深める。

OS-11：利用現場からのエビデンスの必要性と取組み

オーガナイザ：後藤 芳一（日本福祉大学）、坂本 郁夫（日本福祉用具・生活支援用具協会）、岩上 優美（東京医療保健大学）

2023年度から日本福祉用具・生活支援用具協会と日本生活支援工学会が共同で福祉用具のエビデンス取得を産学連携で実施している。モノづくり企業や流通企業を交えて現状を共有し、今後の展望を議論する。

OS-12：ニューロリハビリテーションと工学

オーガナイザ：安田 和弘（東京保健医療専門職大学）、岩田 浩康（早稲田大学）

本OSでは、ニューロリハビリテーションに関わる工学的技術に関して計測技術、治療技術などの提案・開発、それらの技術をヒトや動物に対して用いたときの基礎実験、さらに技術の実用化に関する講演を広く募集する。

OS-13：医療DXを実現する医薬品医療機器GS1コードの普及と課題

オーガナイザ：荒船 龍彦（東京電機大学）

2022年よりすべての医薬品、医療機器に添付が義務化されたGS1バーコードおよび添付文書の電子化が医療DX推進の起爆剤になるために、今解決すべき現状の課題とその解決策について議論する。

OS-14：医療福祉ロボット

オーガナイザ：中里 裕一（日本工業大学）、寺田 英嗣（山梨大学）、田中 英一郎（早稲田大学）、菊池 武士（大分大学）

医療や福祉の現場で用いられることを前提に開発された自動機器およびロボットに関する研究。またそれらの機器に搭載されるソフトウエア。さらに医療福祉に関係するPCや情報端末などのアプリケーション開発など。

OS-15：分野連携が必要な領域における人材育成の取り組み

オーガナイザ：桑名 健太（東京電機大学）

医療・看護・介護・福祉の領域において新技術の社会実装のためには多分野の連携が必要である。本セッションではこれら分野連携が必要な領域における人材育成の取り組みをご紹介いただき、課題と今後について議論する。

OS-16：生体流体工学 ～次世代の医療デバイス開発に向けて～

オーガナイザ：丸山 修（産業技術総合研究所）、増澤 徹（茨城大学）

人工心臓などの次世代の医療デバイス開発に向けて、血栓生成や溶血を防ぐために必要となる最新の技術、とくに流体工学的視点からの見解について議論する。

LIFE 2025　プログラム誌

発　行　日：2025年8月20日（水）

編集・発行：LIFE2025実行委員会

印　　刷：株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793　FAX：096-386-2025
https://secand.jp/